

第43回全日本美容技術選手権大会

競 技 要 綱

と き 平成27年10月20日（火）

と ころ 北海道立総合体育センター

全日本美容業生活衛生同業組合連合会

この大会についての一般的注意事項

1. この大会の目的と意義

全日本美容技術選手権大会は、いうまでもなく、全国から選ばれた技術者が、日頃の研鑽の成果を競い合うことであり、それだけにきわめて高度な資質と技量を示すものといえます。

これは全国の技術者の技能向上の指標となり、その目標達成への努力を通して、美容業界全体の技能水準の向上と営業の発展に大きく寄与すると共に、広く一般社会に業の存在をアピールする目的も併せて持っています。

2. 競技要綱

◇ヘアスタイル競技の部	P. 2
◇ストリートカット競技の部	P. 3
◇カット&ブロー競技の部	P. 5
◇花嫁化粧着付競技の部	P. 6
◇中振袖着付競技の部	P. 10
◇ネイルケア競技の部	P. 14
◇ネイルアート競技の部	P. 16
◇洋装ブライダル競技の部	P. 18
◇メイク競技の部	P. 21

3. 各競技共通事項

(1) 審査事項

大会運営規則第7条第1項及び第2項に基づき委嘱された審査委員が、同条第3項により定められた「専門委員職務要項」に基づき、審査業務を行う。

(2) 監視事項

大会運営規則第7条第1項及び第2項に基づき委嘱された監視委員が、同条第3項により定められた「専門委員職務要項」に基づき、監視業務を行う。

(3) 採点の精算

大会運営規則第7条第3項に定められた「専門委員職務要項」に記載する。

(4) 表彰

入賞者の数については、出場選手の数に応じて連合会理事長が決定する。

◇ヘアスタイル競技の部

(1) クリエイティブ・ファッション

この課題は、ブローテクニックを最大限に活用して、感性に富んだ独自の創造性・ファッション性・芸術性が表現され、進歩的なヘアスタイルを制作するものである。

※ 本競技はモデルウィッグを使用して行う。

(2) 競技時間 25分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項 (違反した場合は、減点もしくは失格となる。)

- ① 競技は連合会が指定するモデルウィッグを使用して行う。
- ② 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする(ミニスカートは禁止する。)。靴は、ヒールの低いものとする。
- ③ 競技中、選手同士又は観客と会話等をしてはならない。
- ④ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ⑤ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑥ モデルウィッグの髪は、競技開始前に完全に濡らし、オールバックにシェープして、髪が濡れた状態からブローに入らなければならない。
- ⑦ 万力は、競技中机に固定しておかななければならない。(万力は選手が持参すること。)
- ⑧ 万力に挟むタオルは、開催担当美容組合から提供されるタオルを使用しなければならない。
- ⑨ 競技終了後、選手はモデルウィッグに一切触れてはならない。
- ⑩ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑪ 審査中、モデルウィッグは固定された万力の上に置き、指示された方向に向けなければならない。
- ⑫ 結い上げ・まとめ髪は禁止する。
- ⑬ “ネオン”カラー(蛍光をともなった色)を除き、カラーの選定は自由である。
- ⑭ カラーズプレーは禁止する。(ラメ入りも禁止する。)
- ⑮ ヘアピース、ヘアアクセサリは禁止する。(イヤリング、ピアス、ネックレス類は使用可能であるが、競技時間内(25分)に着けなければならない。)
- ⑯ メイクは自由とする。ただし、ストーン及びタトゥー(絵)等は禁止する。
- ⑰ モデルウィッグに洋服は取り付けない。(首にスカーフを巻くことも禁止する。)
- ⑱ ウィッグへの印、ピン打ち等は禁止する。
- ⑲ 競技に必要なすべての用具の使用を認める。ただし、シザーケース(施術中に腰やベルトに下げてはさみ等用具を収納する革製のケース)は禁止する。
- ⑳ 電源は1人1. 3kwまでとし、コンセントは1口用である。(2口用コンセントは禁止する。)
- ㉑ 控室で電源の使用は禁止する。

[注] モデルウィッグは、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

◇ストリートカット競技の部

(1) サロンスタイル

この課題は、必ずカールパーマ、カラーリングを事前に施したモデルに対し、カット及びブロー、一般的なサロンスタイルを制作するもので、審査は全体的なトータルバランスで行うものとする。ヘアスタイル制作にあたって、作品に独自の創造性、ファッション性が表現されるものとする。

仕上がりは芸術的であったり、凝り過ぎていてはならず、また、スプレーをかけ過ぎてはならない。カラー及びデザインは、極端であってはならない。

(2) 競技時間 …… 40分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項（違反した場合は、減点もしくは失格となる。）

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする（ミニスカートは禁止する。）。靴は、ヒールの低いものとする。
- ② 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ③ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ④ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑤ モデルは、開催担当美容組合から提供されるケープを着用しなければならない。
- ⑥ モデルの髪は、競技開始前に完全に濡らし、オールバックにシェープして、髪が濡れた状態から始めなければならない。
- ⑦ カットは、全頭3cm以上カットしなければならない。（事前点検時に撮影し、競技終了後、監視委員が確認する）
- ⑧ ヘアスタイルの制作にあたって、モデルは選手の手助けをしてはならない。
- ⑨ モデルのケープは、競技時間内（40分）に取らなければならない。
- ⑩ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑪ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑫ 審査中、モデルは指示された方向を向き、座ってポーズをとり、審査時間の2/3が過ぎた時点で、立ってポーズをとらなければならない。（審査時間は選手数により変動する。）
- ⑬ 全体の1/3以上のパーマ（根元、中間、毛先の範囲は問わないがストレートパーマは認めない）が施されていて仕上がりに反映されてなければならない。
- ⑭ ヘアピース、ウィッグ、つけ毛（ヘアエクステンション）、ヘアアクセサリは禁止する。
- ⑮ イヤリング、ネックレス類は使用可能であるが、競技時間内（40分）に着けなければならない。
- ⑯ 結い上げ・まとめ髪は禁止する。
- ⑰ “ネオン”カラー（蛍光をともなった色）を除きカラーの選定は自由である。ただし、極端なものではなく、営業の範囲にとどまるものでなければならない。
- ⑱ カラーズプレーは禁止する。（ラメ入りも禁止する。）

- ⑱ メイクは自由とし、事前に施すものとする。ただし、ストーン及びタトゥー（絵）等は禁止する。
- ⑳ 整髪料は自由とする。
- ㉑ 競技に必要なすべての用具の使用を認める。ただし、シザーケース（施術中に腰やベルトに下げてはさみ等用具を収納する革製のケース）は禁止する。
- ㉒ 電源は1人1.3kwまでとし、コンセントは1口用である。（2口用コンセントは禁止する。）
- ㉓ 控室で電源の使用は禁止する。

◇カット & ブロー競技の部

(1) モードスタイル

この課題は、モードスタイルを制作するものである。ヘアスタイル制作にあたっては、作品に独自の創造性、ファッション性が表現されるものとする。

※ 本競技はモデルウィッグを使用して行う。

(2) 競技時間 40分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項 (違反した場合は、減点もしくは失格となる。)

- ① 競技は連合会が指定するモデルウィッグを使用して行う。
- ② 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする(ミニスカートは禁止する。)。靴は、ヒールの低いものとする。
- ③ 競技中、選手同士又は観客と会話等をしてはならない。
- ④ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ⑤ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑥ モデルウィッグの髪は、競技開始前に完全に濡らし、オールバックにシェープして、髪が濡れた状態からカットに入らなければならない。
- ⑦ 万力は、競技中机に固定しておかななければならない。(万力は選手が持参すること。)
- ⑧ 万力に挟むタオルは、開催担当美容組合から提供されるタオルを使用しなければならない。
- ⑨ 競技終了後、選手はモデルウィッグに一切触れてはならない。
- ⑩ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑪ 審査中、モデルウィッグは固定された万力の上に置き、指示された方向に向けなければならない。
- ⑫ 事前カットは一切認めない。
- ⑬ “ネオン” カラー (蛍光をともなった色) を除き、カラーの選定は自由である。
- ⑭ カラープレーは禁止する。(ラメ入りも禁止する。)
- ⑮ モデルウィッグへのパーマ、メイクは自由とする。ただし、ストーン及びタトゥー (絵) 等は禁止する。
- ⑯ ヘアピース、ウィッグ、ヘアアクセサリは禁止する。
- ⑰ イヤリング、ピアス、ネックレス類は使用可能であるが、競技時間内 (40分) に着けなければならない。
- ⑱ モデルウィッグに洋服は取り付けない。(首にスカーフを巻くことも禁止する。)
- ⑲ ウィッグへの印、ピン打ち等は禁止する。
- ⑳ 整髪料は自由とする。
- ㉑ 競技に必要なすべての用具の使用を認める。ただし、シザーケース (施術中に腰やベルトに下げてはさみ等用具を収納する革製のケース) は禁止する。
- ㉒ 電源は1人1.3kwまでとし、コンセントは1口用である。(2口用コンセントは禁止する。)
- ㉓ 控室で電源の使用は禁止する。

[注] モデルウィッグは、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

◇花嫁化粧着付競技の部

(1) 色直し振袖 (おはしより) 着付

通常披露宴でのお色直しとして用いられるもの。

競技は、「衿とじ」の作業及び「化粧、かつら装着、ボディ修正、長襦袢着付」までの作業と「振袖着付、帯結び」の作業に分けて行う。

長襦袢着付までの作業は監視委員立会いの下に控室等で行い、「振袖着付、帯結び」の作業は競技ステージで行う。

(2) 競技時間

衿とじの作業	控室にて作業・・・・・・・・・・	25分
長襦袢着付までの作業	控室にて作業・・・・・・・・・・	80分
振袖着付、帯結びの作業	競技ステージにて作業・・・・	20分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項 (違反した場合は、減点もしくは失格となる。)

[禁止事項]

- ① 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ② 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ④ 長襦袢及び色振袖の衿とじを事前に行うことは認めない。(ただし、長襦袢及び色振袖の衿とじは、大会当日の朝、競技前に監視委員立会いの下で、長襦袢着付までの作業時間80分とは別に25分間で行う。その後、作業しやすいようにたたみ直すこと。)
- ⑤ 帯に形付けをしたり、帯結びの過程につながる過度のたたみ方をしておくことは認めない。
- ⑥ 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ⑦ かつらの下地作り、あるいはかつらに、くし・こうがいなどを取り付けておくことは認めない。
- ⑧ 極端に完成されたボディ修正用具の使用は認めない。
- ⑨ ボディ補整のパットやタオルはとじ付けてあってはいけない。
- ⑩ ブラジャー (和装用を含む) の使用は認めない。
- ⑪ 袖の錘用の板紙等の使用は認めない。
- ⑫ ものさし類の使用は認めない。
- ⑬ モデルは競技開始前に、えり、顔の化粧 (パック、化粧水を含む) がしてあってはならない。
- ⑭ モデルは競技中はもとより、控室にあっても化粧施術を禁止する。(アイテープ、つけまつ毛を使用する場合は、選手が競技時間内 (80分) につけること。)
- ⑮ モデルが、ひも・伊達巻き・帯あげなどを結ぶことは認めない。(ただし、ひも・伊達巻き・帯あげなどを腕にかけたり、手に持つことはさしつかえない。)
- ⑯ モデルが、袖・衿元・裾などを修正することは認めない。(ただし、たもとを持ち上げること及び衿合せを押さえることはさしつかえない。)
- ⑰ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。

- ⑧ 助手の使用は一切認めない。(ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従って助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。)

〔制限事項〕

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする(ミニスカートは禁止する。)。靴は、ヒールの低いものとする。
 ② 帯結びの型については、立矢型とする。
 ③ 前身頃の衿の縫目と「おはしより」の縫目はそろえること。

〔衣裳類持込みに際しての禁止事項〕

- (a) 振袖 ① 身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
 ② 比翼(裾)は、つけてある所から、裾ふきまで一切表布にとじてあつてはいけない。
 ③ 立て袂の比翼は、胴裏につけてある所から衿つけで表布にとじてあつてはいけない。
 ④ 袖付にあて布があつてはいけない。
 (b) 長襦袢 ① 衿は、三河芯に半衿をつけたもの以外は認めない。その他、特別に考案・加工された、特殊な型式のものも認めない。
 ② 衿は白無地とする。
 ③ 上下セパレートのもの認めない。
 ④ 巡礼衿は認めない。
 ⑤ 後衿の力布は、あつてはいけない。
 (c) 帯と抱え帯 ① 特定のひだの折り癖が強くつけられているものは認めない。
 (d) 着付小物 ① 肌着、裾よけは着付教室などで開発した特殊な型式のものは認めない。

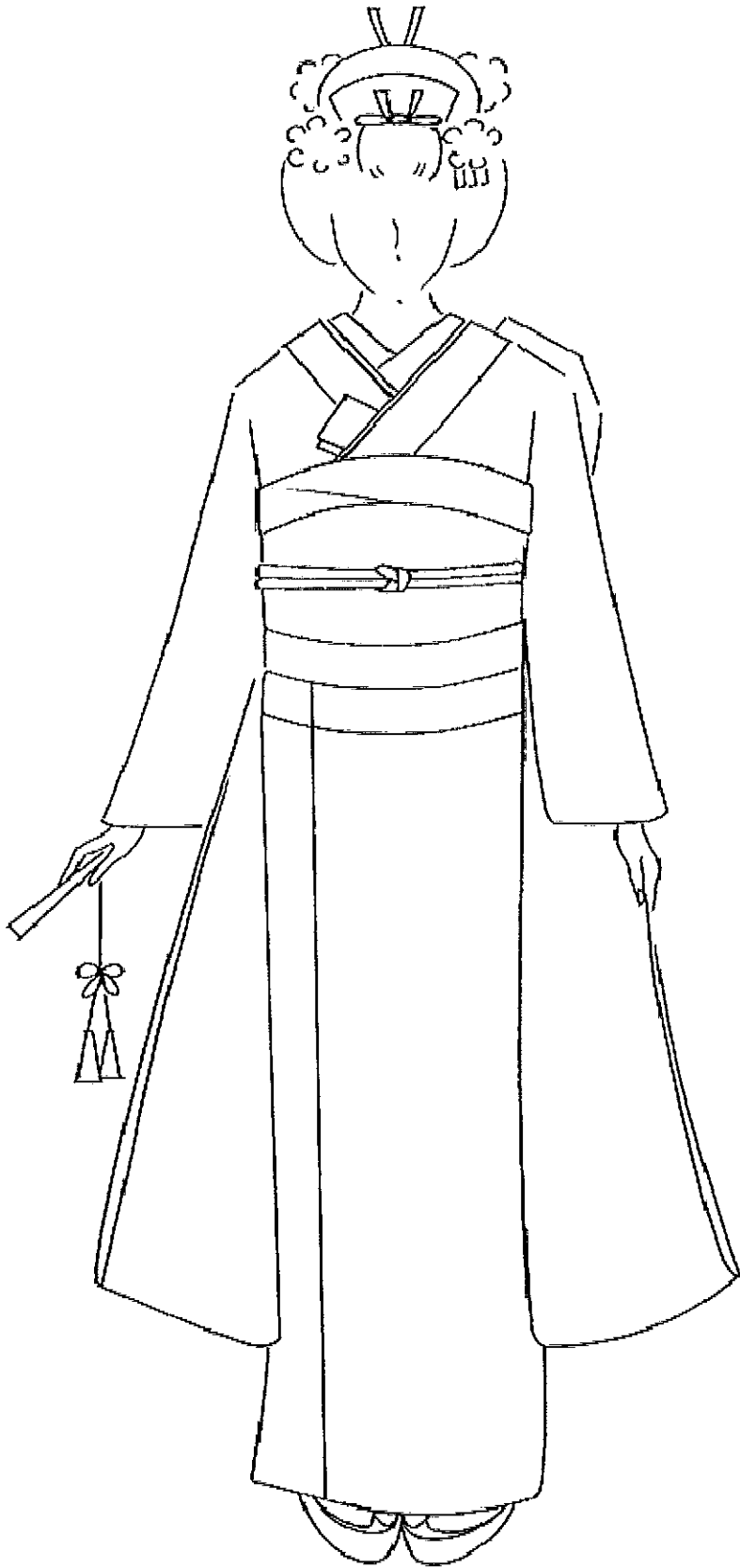
〔注〕競技用具は、大会当日の朝、競技前に監視委員が嚴重に点検を行う。

(4) その他の注意事項

- ① 帯結びに使用するひもは、腰ひも又は何重のゴム仮ひもでもよい。
 ② 立矢の帯の中に芯を使用してもよい。(ただし、振袖着付・帯結びの作業時間内(20分)で行うこと。)
 ③ おはしより芯は使用できない。
 ④ 草履を履いて審査を行う。
 ⑤ アイロンは使用できない。
 ⑥ 控室で電源の使用は禁止する。
 ⑦ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
 ⑧ 審査中のモデルのポーズは図のとおりとする。〔資料図参照〕

(5) 競技用具の準備 (選手が準備するもの)

- (a) ① 色振袖 ② 丸帯 ③ 草履 ④ 長襦袢 (長襦袢の衿は三河芯にして、三河芯幅に半衿をつけたもの) ⑤ 五点セット (帯じめ、帯あげ、抱え帯、扇子、はこせこ)
⑥ 衣装敷 (並判) ⑦ 衣裳箱 (赤色で高さ18cm位の一般的に使用されているもの)
- (b) ① かつら (文金高島田) ② 花こうがい (極端に派手でないもの)
③ 前櫛 (特殊な加工がなされていないもので、前髪に挿すこと。)
※ 角かくしは不要。
※ こうがいをつける時、特殊な用具 (こうがい用マジック等) の使用は禁止する。
- (c) 小物付属品「足袋、肌襦袢、裾よけ又はワンピース型肌着、腰ひも、仮ひも、伊達巻き (2本)、ボディ修正用具 (綿花、タオル、さらし又はガーゼ)、帯枕、帯板、クリップ、衿芯 (長襦袢及び着物の衿用として奉書紙 (35cm×25cm 以上、55cm×40cm 以内) を使用のこと。ただし、折ってあってはならない。)」
- (d) 化粧用具一式 (鏡は40cm×30cm以内の物とし、台に乗せてはならない。)
- (e) 裁縫用具一式



◇中振袖着付競技の部

(1) 中振袖着付

通常成人式の時用いられるもので、袋帯（六通または全通）を使用したもの。

競技は、「衿とじ」の作業及び「化粧、ヘアスタイル作り、ボディ修正、長襦袢着付」までの作業と「振袖着付、帯結び」の作業に分けて行う。

長襦袢着付までの作業は監視委員立会いの下に控室等で行い、「振袖着付、帯結び」の作業は競技ステージで行う。

(2) 競技時間

衿とじの作業	控室にて作業	・・・・・・	25分
長襦袢着付までの作業	控室にて作業	・・・・・・	80分
振袖着付、帯結びの作業	競技ステージにて作業	・・・・	20分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項（違反した場合は、減点もしくは失格となる。）

[禁止事項]

- ① 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ② 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ④ 長襦袢及び振袖の衿とじ、重ね衿、伊達衿付けを事前に行うことは認めない。（ただし、長襦袢及び振袖の衿とじは、大会当日の朝、競技前に監視委員立会いの下で、長襦袢着付までの作業時間80分とは別に25分間で行う。その後、作業しやすいようにたたみ直すこと。）
- ⑤ 帯に形付けをしたり、帯結びの過程につながる過度のたたみ方をしておくことは認めない。
- ⑥ 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ⑦ 極端に完成されたボディ修正用具の使用は認めない。
- ⑧ ボディ補整のパットやタオルはとじ付けてあってはいけない。
- ⑨ ブラジャー（和装用を含む）の使用は認めない。
- ⑩ 帯のアクセサリは認めない。
- ⑪ かつらの使用は認めない。
- ⑫ おはしより芯の使用は認めない。
- ⑬ 袖の錘用の板紙等の使用は認めない。
- ⑭ ものさし類の使用は認めない。
- ⑮ モデルは競技開始前に、えり、顔の化粧（パック、化粧水を含む）がしてあってはならない。
- ⑯ モデルは競技中はもとより、控室にあっても化粧施術を禁止する。（アイテープ、つけまつ毛を使用する場合は、選手が競技時間内（80分）につけること。）
- ⑰ モデルが、ひも・伊達巻き・帯あげなどを結ぶことは認めない。（ただし、ひも・伊達巻き・帯あげなどを腕にかけたり、手に持つことはさしつかえない。）

- ⑱ モデルが、袖・衿元・裾などを修正することは認めない。(ただし、たもとを持ち上げること及び衿合せを押さえることはさしつかえない。)
- ⑲ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑳ 助手の使用は一切認めない。(ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従って助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。)

[制限事項]

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする(ミニスカートは禁止する。)。靴は、ヒールの低いものとする。
- ② 帯結びの型については、最近2年間の全日本美容講師会TMモード(第99回:平成26年9月2日「悠久」「いろどり」、第98回:平成25年9月3日「杜の都」「千代の萩」)で発表した帯結びの中から選ぶこと。(アレンジは不可)
- ③ 帯あげは、入りの字型とする。
- ④ 帯じめは、中心で結ぶこと。
- ⑤ トータルバランスを考えて過剰にならない範囲で、ヘアピース、ヘアアクセサリーの使用は良い。ただし、ヘアピースについては個数は1個とし、頭部(出来上り)の1/3以上を覆ってはならない。また、ヘアアクセサリーはヘアスタイル(出来上り)の1/3以上を覆ってはならない。
- ⑥ 前身頃の衿の縫目と「おはしより」の縫目はそろえること。

[準備事項]

- ① オリジナルセットは事前に作り、ドラインク完了にて会場入りすること。アミカラー等ははずしても良いが、ブロックにまとめて留めることは認めない。
(控室で電源の使用は禁止する。)

[衣裳類持込みに際しての禁止事項]

- (a) 中振袖
 - ① 身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
 - ② 袖付にあて布があってはいけない。
 - ③ 重ね衿、伊達衿は着物に付けてあってはいけない。
- (b) 長襦袢
 - ① 衿は、三河芯に半衿をつけたもの以外は認めない。その他、特別に考案・加工された、特殊な型式のものも認めない。
 - ② 半衿は白無地とする。
 - ③ 上下セパレートのもの認めない。
 - ④ 巡礼衿は認めない。
 - ⑤ 後衿の力布は、あってはいけない。
- (c) 帯
 - ① 特定のひだの折り癖が強くつけられているものは認めない。
- (d) 着付小物
 - ① コーリンベルトの使用は認めない。

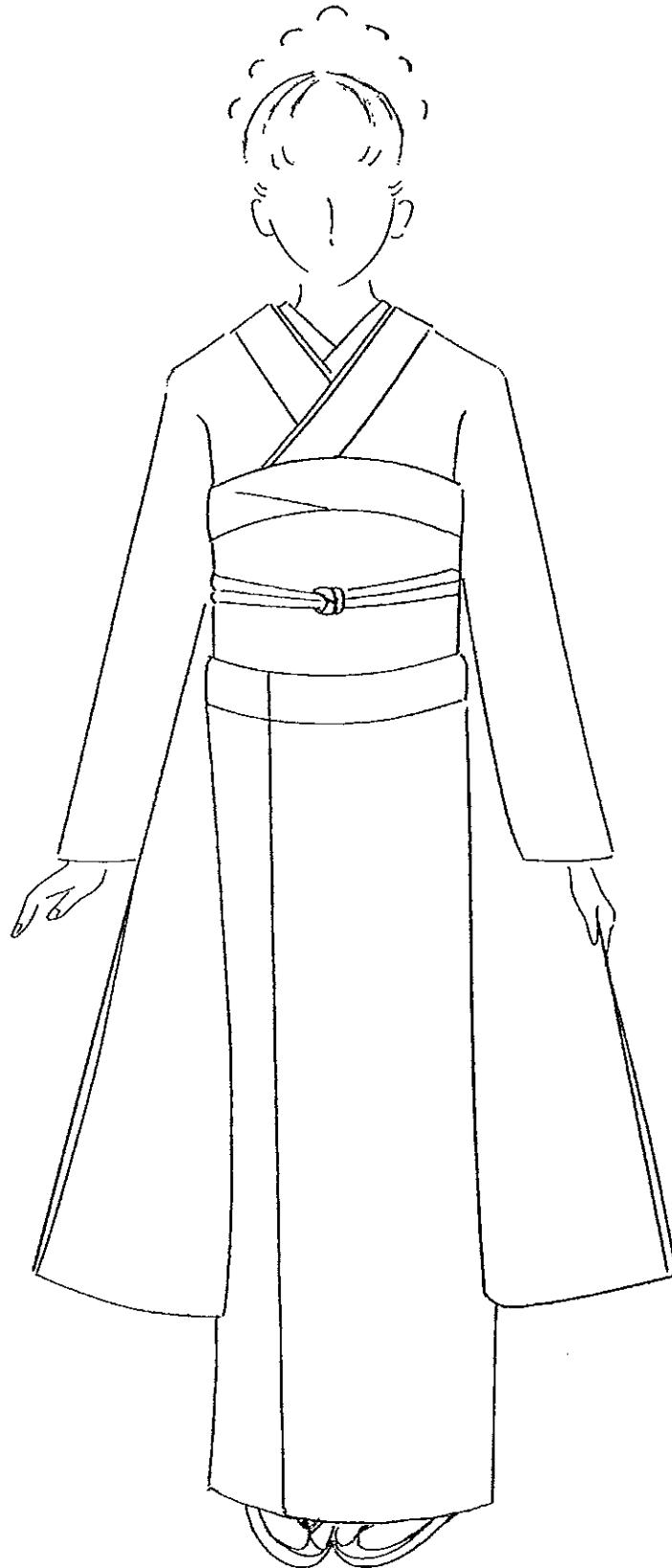
[注] 競技用具は、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

(4) その他の注意事項

- ① 草履を履いて審査を行う。
- ② アイロンは使用できない。
- ③ 控室で電源の使用は禁止する。
- ④ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑤ 審査中のモデルのポーズは図のとおりとする。〔資料図参照〕

(5) 競技用具の準備 (選手が準備するもの)

- (a) ① 中振袖 ② 重ね衿又は伊達衿 ③ 袋帯 (六通または全通) ④ 草履
 ⑤ 長襦袢 (長襦袢の衿は三河芯にして、三河芯幅に半衿をつけたもの。)
 ⑥ 帯じめ、帯あげ ⑦ 衣装敷 (並判)
 ⑧ 衣装箱 (赤色で高さ18cm位の一般的に使用されているもの。)
- (b) 小物付属品「足袋、肌襦袢、裾よけ又はワンピース型肌着、腰ひも、ゴム仮ひも (寿仮ひも可)、伊達巻き (2本)、ボディ修正用具 (綿花、タオル、さらし又はガーゼ)、帯枕、帯板、カラーバンド又は輪ゴム、クリップ類、衿芯 (長襦袢及び着物用として和紙 (半紙、障子紙、奉書紙) を使用のこと。ただし、折ってあってはならない。)」
- (c) ヘア用具一式
- (d) 化粧用具一式 (鏡は40cm×30cm以内の物とし、台に乗せてはならない。)
- (e) 裁縫用具一式



◇ネイルケア競技の部

(1) ナチュラルネイルケア

ネイルのプロポーション、クリーンさ、健康なネイルを保つためのテクニックを競う。ヘアスタイル、化粧、衣装は、一切審査対象にならない。

競技は「(事前) カラーリング」までの作業及び「カラーオフ、ファイリング、キューティクル処理、バッフィング」までの作業と、「カラーリング」までの作業に分けて行う。

「カラーオフ～バッフィング」までの作業は監視委員立会いの下に控室等で行い、「カラーリング」の作業は競技ステージで行う。

(2) 競技時間

(事前) カラーリング	控室にて作業・・・・・・・・・・	30分
カラーオフ～バッフィング	控室にて作業・・・・・・・・・・	30分
カラーリング	競技ステージにて作業・・・・	30分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項 (違反した場合は、減点もしくは失格となる。)

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする(ミニスカートは禁止する。)。靴は、ヒールの低いものとする。
- ② 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ③ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ④ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑤ 用具は衛生的に消毒されており、隣の選手の邪魔とならないよう、自分のスペース内できちんと整理されていなければならない。
- ⑥ 次の用具は、内容を表示したラベル(手書きでも可)が貼られていなければならない。
「消毒液、油分処理剤、キューティクルリムーバー(もしくはキューティクルクリーム)、エナメルリムーバー、ベースコート、カラーエナメル、トップコート、液体ソープ、お湯、水」
- ⑦ 選手は作業に必要な全ての製品と用具、照明スタンド(卓上型、100w以内、1人1台)を持参しなければならない。控室も同様。(コンセントは1口用)
- ⑧ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑨ 競技終了後、選手は直ちに照明スタンド、タオル、アームレスト以外の用具その他のものを持って退場しなければならない。(照明スタンドは点灯したままにしておき、タオル、アームレスト(支給タオルを掛けたもの)以外のものを置くことはできない。)
- ⑩ 審査中、モデルはケープを着用したまま、両手を机の上に出しておかななければならない。
- ⑪ 審査中、両手の下に敷くタオルは、開催担当美容組合から提供されるもの以外の使用を禁止する。

[モデル]

- ① 爪は競技一週間前からファイリング・キューティクル処理などの手入れをしてはいけない。
- ② 自爪を原則とし、リペアは可。
- ③ 長さを出すイクステンションは5本まで可。
- ④ モデルは、開催担当美容組合から提供されるケープを着用しなければならない。
- ⑤ モデルは競技中はもとより、控室にあっても選手の手助けをしてはならない。

[点検]

- ① モデルの事前点検はカラーエナメルがオフされた状態で監視委員が行う。その後競技を行う。

[競技規定]

- ① 女性モデルを使用し両手の施術を行う。
- ② 競技は控室での「(事前) カラーリング」からスタートする。
- ③ 控室・競技ステージ共、競技スタート後に手指消毒を行い作業を開始する。
- ④ カラーリングは「油分処理、ベースコート、カラーエナメル2度塗り (2コート)、トップコート」までとする。
- ⑤ 使用するカラーエナメルは真赤とする。(パール、ラメ入りは不可)
- ⑥ 裏、表ともにカラーリングする。(裏はエッジのみでも可)
- ⑦ カットスタイルはラウンドとする。
- ⑧ 使用を禁止するもの
リッジフィラー・ネイルマシーン・爪磨き用鹿皮パUFFER・キューティクルオイル・
マッサージクリーム等保湿剤・速乾剤

[注] モデルの爪は、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

◇ネイルアート競技の部

(1) ネイルアート

この課題はネイルチップをモデル（人体）の10指に装着し、細やかで品性を保ったデザインであり、感性に富んだ独自の創造性・芸術性のある作品をテーマに沿って制作するものである。ヘアスタイル、化粧、衣装は一切審査対象にならない。

競技は、「チップ装着」の作業と、「ネイルアート」の作業に分けて行う。「チップ装着」の作業は監視委員立会いの下に控室等で行い、「ネイルアート」の作業は競技ステージで行う。

<テーマ>

「ゴージャス&モード」

(2) 競技時間

チップ装着	控室にて作業・・・・・・・・・・	5分
テーブルセッティング（準備）	競技ステージにて作業・・・	15分
ネイルアート	競技ステージにて作業・・・	60分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項（違反した場合は、減点もしくは失格となる。）

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする（ミニスカートは禁止する。）。靴は、ヒールの低いものとする。
- ② 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ③ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ④ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑤ 用具は衛生的に消毒されており、隣の選手の邪魔とならないよう、自分のスペース内できちんと整理されていなければならない。
- ⑥ 次の用具は、内容を表示したラベル（手書きでも可）が貼られていなければならない。
「消毒液、油分処理剤、エナメルリムーバー、トップコート、水」
- ⑦ 選手は作業に必要な全ての製品と用具、照明スタンド（卓上型、100W以内、1人1台）を持参しなければならない。（コンセントは1口用）
- ⑧ 競技中は必ずネイルチップをモデルの手に装着した状態で作業しなければならない。
- ⑨ 図案等の参考資料は持ちこんではならない。
- ⑩ 著作権を侵害する作品（キャラクター等）は不可とする。
- ⑪ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑫ 競技終了後、選手は直ちに照明スタンド、タオル、アームレスト以外の用具その他のものを持って退場しなければならない。（照明スタンドは点灯したままにしておき、タオル、アームレスト（支給タオルを掛けたもの）以外のものを置くことはできない。）
- ⑬ 審査中、机の上のタオルは、開催担当美容組合から提供されるもの以外の使用を禁止する。
- ⑭ 審査中、モデルはケープを着用したまま、椅子に座っていなければならない。
- ⑮ 審査中、モデルのポージングはタオルの範囲内で自由に行うこと。

〔ネイルチップ〕

- ① 事前にモデルの各爪のサイズに合わせたチップの準備を行なう事。(メーカー・長さ・カットスタイルの指定はない。)
- ② 事前にベースカラーを1色(10指同色)塗布する事。それ以外の装飾は不可とする。(ベースコート不要。エッジまで塗布。エアブラシ・マーブル等のデザイン不可。)
- ③ ネイルチップの装着は両面テープで行う事。(ネイルチップの裏に事前に両面テープを貼り付けておいてもよい。)

〔モデル〕

- ① 事前のネイルケア可。
- ② モデルの手、腕等に着色、または模様を描く等の装飾を施してはならない。
- ③ モデルは、開催担当美容組合から提供されるケープを着用しなければならない。
- ④ モデルは競技中はもとより、控室にあっても選手の手助けをしてはならない。

〔点検〕

- ① 用具、ネイルチップ、モデルの点検はチップをモデルに装着した後、控室及び競技ステージで監視委員が行う。

〔競技規定〕

- ① 女性モデルを使用し両手の施術を行う。
- ② 控室にて手指消毒後、予め用意しておいたネイルチップを装着すること。
- ③ 競技は10枚のネイルチップにアクリル絵の具を使用してフラットアートを行なう。
- ④ ストーン、ブリオン、ラメ、ホログラムの使用可。(個数制限はないが、原則としてフラットアートをメインとする。)
- ⑤ 仕上げはトップコートまでとする。
- ⑥ 競技終了後は、速やかに各自が決めた構図に従いモデルの手を配置(ポージング)すること。
- ⑦ 使用を禁止するもの
3D、エンボス、ピアス、テープ、シール、エアブラシ、ウォーターマーブル

〔審査基準〕

『ネイルアート』

テーマに沿った作品であり、細やかで品性を保ったデザインであり、感性に富んだ独自の創造性・芸術性が表現されているかを審査する。

ー審査項目ー

- ① [テーマに沿った表現]
- ② [カラーハーモニー]
- ③ [オリジナリティ]
- ④ [仕上がり・完成度]

◇洋装ブライダル競技の部

(1) ウェディング・ドレス着付

通常チャペルでの挙式に相応しいもので、ドレスの色は挙式に相応しい範囲の白(ホワイト、オフホワイト、クリームは可、シルバー、ゴールドは不可)、ヘアスタイルは自由とする。

競技は、「ヘアの仕上げ、ドレス着付」までの作業と「メイク、ベール着用」の作業に分けて行う。「ヘアの仕上げ、ドレス着付」までの作業は、監視委員立会いの下に控室等で行い、「メイク、ベール着用」の作業は競技ステージで行う。

(2) 競技時間

ヘアの仕上げ	}	控室にて作業 40分
ドレス着付			
メイク	}	競技ステージにて作業 40分
ベール着用			
モデルのポーズ付け			
〈 審査 〉			

(3) 競技に関する制限及び禁止事項 (違反した場合は、減点もしくは失格となる。)

〔禁止事項〕

- ① 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ② 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ④ モデルは競技中はもとより、控室にあっても選手の手助けをしてはならない。
- ⑤ モデルのカラーコンタクトの使用は禁止する。
- ⑥ ブーケは禁止する。
- ⑦ ベールは、モデルの顔に掛かってはいけない。
- ⑧ モデルは競技開始前に、デコルテ、顔の化粧(パック、化粧水を含む)がしてあってはならない。
- ⑨ モデルは競技中はもとより、控室にあっても化粧施術を禁止する。(アイテープ、つけまつ毛を使用する場合は、選手が競技時間内(40分)につけること。)
- ⑩ 助手の使用は一切認めない。(ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従い助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。)
- ⑪ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。

〔制限事項〕

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする（ミニスカートは禁止する。）。靴は、ヒールの低いものとする。
- ② モデルは、開催担当美容組合から提供されるケープを着用しなければならない。
- ③ モデルのケープは、「メイク、ベール着用」の競技時間内（40分）で取らなければならない。
- ④ ドレスのトレーン、ベールは、競技スペースから出てはならない。〔資料図参照〕
- ⑤ ヘアピースの使用は禁止する。
- ⑥ ヘアアクセサリ及びティアラは、事前に着けてあってもかまわない。（ただし、競技ステージで着ける場合は、競技時間内（40分）で着けなければならない。）
- ⑦ イヤリング、ネックレス、手袋等は、事前に着けてあってもかまわない。（ただし、競技ステージで着ける場合は、競技時間内（40分）で着けなければならない。）
- ⑧ “ネオン”カラーを除き、カラーの選定は自由である。ただし、極端なものではなく、営業の範囲にとどまるものでなければならない。

〔準備事項〕

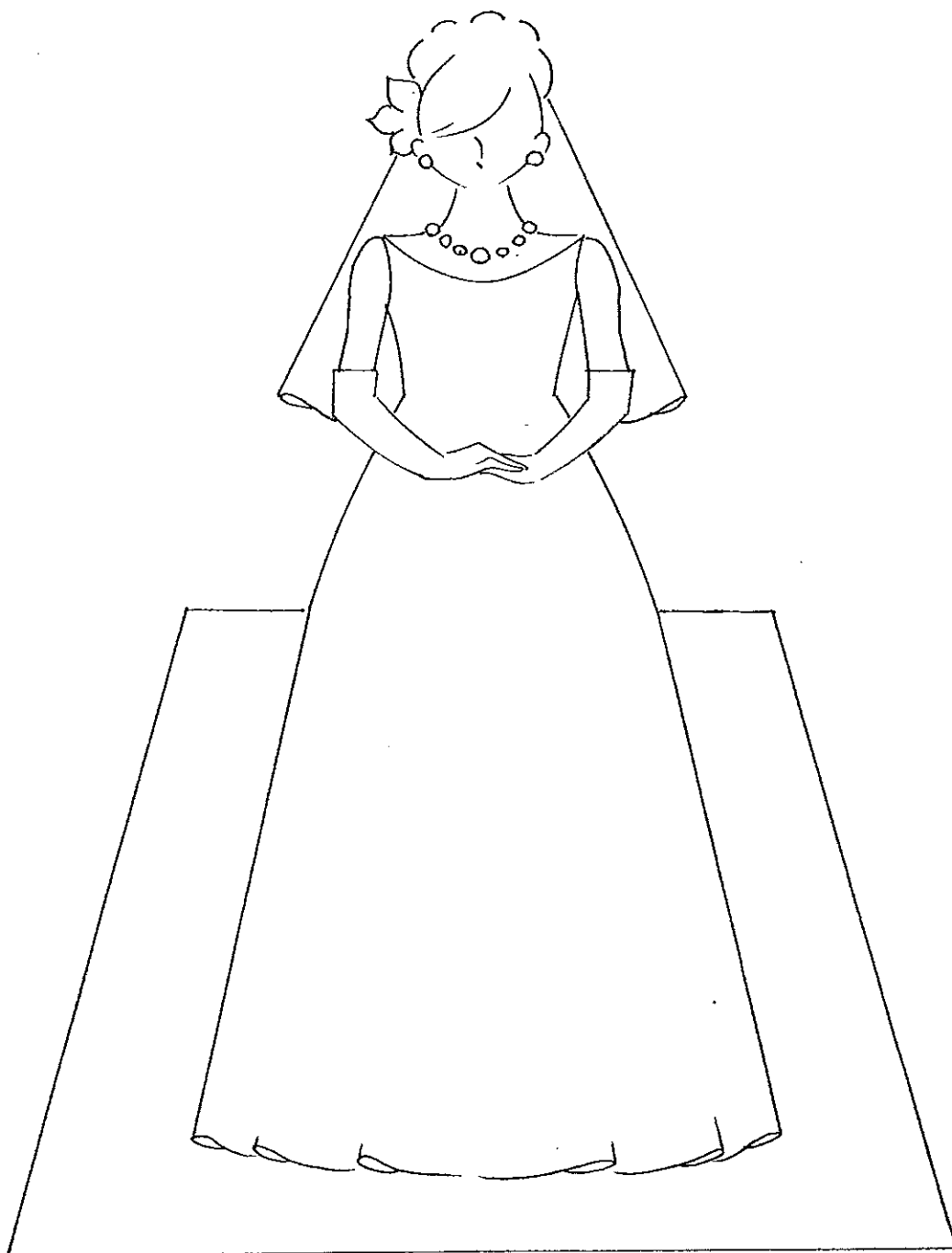
- ① オリジナルセットは事前に作り、ヘアのドライイングが完了されている状態で会場入りしなければならない。

(4) その他の注意事項

- ① 競技に必要なすべての用具の使用を認める。
- ② 控室及び競技ステージで電源の使用は禁止する。
- ③ 用具は、隣の選手の邪魔とならないよう、自分のスペース内できちんと整理されていなければならない。
- ④ 審査中、モデルは指示された方向を向いて立ち、指定されたポーズをとらなければならない。
〔資料図参照〕

(5) 競技用具の準備（選手が準備するもの）

- (a) ウェディング・ドレス一式
- (b) ヘア用具一式
- (c) 化粧用具一式
- (d) 卓上鏡
- (e) 必要な小物類
- (f) 敷物（控室でドレス着用時に床に敷く物）



◇メイク競技の部

(1) クリエイティブ・メイク

この課題は、モデルの個性を生かしテーマに沿ったメイク（化粧）を主流にしたトータルバランスの競技である。ヘア・メイク・ファッションがバランス良く表現されていなければならない。

衣裳は和装を除いて自由とする。

採点に関しては、あくまでメイクアップを中心としたトータル審査とする。

競技は、「フィッティング、ヘアの仕上げ」までの作業と「メイク及びトータル仕上げ」の作業に分けて行う。

「フィッティング、ヘアの仕上げ」までの作業は監視委員立会いの下に控室等で行い、「メイク及びトータル仕上げ」の作業は競技ステージで行う。

＜テーマ＞

「ゴージャス&エレガント」

(2) 競技時間

フィッティング

ヘアの仕上げ

} 控室にて作業・・・40分

メイク及び

トータル仕上げ

} 競技ステージにて
作業・・・30分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項（違反した場合は、減点もしくは失格となる。）

〔禁止事項〕

- ① 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ② 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ④ モデルは競技中はもとより、控室にあっても選手の手助けをしてはならない。
- ⑤ ボディメイクは禁止する。
- ⑥ いわゆる入れ墨メイクは禁止する。
- ⑦ モデルは競技開始前に、顔の化粧（パック、化粧水を含む）がしてあってはならない。
- ⑧ アイテープ、つけまつ毛を使用する場合は、選手が競技時間内（30分）につけること。
- ⑨ 助手の使用は一切認めない。（ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従い助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。）
- ⑩ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。

〔制限事項〕

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする（ミニスカートは禁止する。）。靴は、ヒールの低いものとする。
- ② モデルは、開催担当美容組合から提供されるケープを着用しなければならない。
- ③ モデルのケープは、「メイク及びトータル仕上げ」の競技時間内（30分）で取らなければならない。
- ④ イヤリング、ネックレス等は、事前に着けてあってもかまわない。（ただし、競技ステージで着ける場合は、競技時間内（30分）で着けなければならない。）
- ⑤ “ネオン” カラーを含んで、カラーの選定は自由である。
- ⑥ ヘアの仕上がりはストレートであってはならない。
- ⑦ ヘアピース、ウィッグの大きさ、数量に制限はないが、顔を覆う作品は不可とする。

〔準備事項〕

- ① オリジナルセットは事前に作り、ヘアのドライングが完了されている状態で会場入りしなければならない。（ヘアピース、ウィッグを含む）

(4) その他の注意事項

- ① 競技に必要なすべての用具の使用を認める。ただし、シール及び型抜きに類する物は認めない。
- ② 控室及び競技ステージで電源の使用は禁止する。
- ③ 控室に机はあるが、競技ステージに机はない。（各自で鏡付化粧ケース等を持参すること。）
- ④ 用具は、隣の選手の邪魔とならないよう、自分のスペース内できちんと整理されていなければならない。
- ⑤ 審査中、モデルは指示された方向を向き、座ってポーズをとり、審査時間の2／3が過ぎた時点で、立ってポーズをとらなければならない。（審査時間は選手数により変動する。）

(5) 競技用具の準備（選手が準備するもの）

- (a) 衣裳
- (b) ヘア用具一式
- (c) 化粧用具一式
- (d) 必要な小物類
- (e) 敷物（控室で衣裳着用時に床に敷く物）